第120回定時株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。4月1日付の執行役員人事を含めた新体制は次の通り。

代表取締役社長執行役員　新妻一彦▽取締役兼専務執行役員研究開発部門統轄、品質保証部担当　金子俊之▽同兼同営業部門統轄、営業企画部・海外事業部・ソリューション営業部・飼料畜産部・穀物原料部担当　国領順二▽同兼常務執行役員管理部門統轄、経営企画部長　大柳奨▽同兼同ミックス・パスタ事業統括室・油脂部・食品部・支店担当　山口龍也▽同兼同広域営業部・製粉部・糖質部担当　塚越英行（新任）▽取締役（社外）柳谷孝▽同（同）三上直子（新任）前慶一▽同サンエイ糖化㈱社長　太田隆行▽同九州昭和産業㈱社長　杉山毅▽同奥本製粉㈱社長　小河原賢二▽同飼料畜産部長　荒川謹亮▽同財務部長　細井義泰▽同製粉部長　駒井孝哉▽同生産技術部長　大野正史▽同情報システム部長　松嶋伸▽同基盤技術研究所長　仙波美智代▽同大阪支店長　鈴木孝明▽同鹿島工場長　永井俊彦

取締役の中村圭介、三輪隆司の両氏は退任した。

JA全農たまご

JA全農たまご㈱（本社・東京都新宿区）はこのほど定時株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

代表取締役社長　小島勝（同）▽同（同）髙橋龍彦（同）▽常勤監査役（非常勤）鈴木理央▽監査役（非常勤）新妻成一▽同（同）若宮良一▽執行役員法務・コンプライアンス本部長　松木純二（新任）▽同経営企画本部経営企画部長　松原和義（同）

専務取締役の陶山徹、取締役の小林茂雄の両氏は退任した。

JA東日本くみあい飼料

JA東日本くみあい飼料㈱（本社・群馬県太田市）は6月24日に定時株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

取締役会長（非常勤）唐澤透▽代表取締役社長、会社統括、管理部担当　守江肥料工場補佐　廣橋晃（新任）▽同本社営業部、営業所、東海支店、農場事業、子会社担当　坂爪義弘（同）▽取締役（非常勤）八木岡努▽同（同）髙橋武▽同（同）林茂壽▽同（同）今井長司▽同（同）松永大吾▽同（同）谷口俊二▽同（同）由井琢也▽常勤監査役　小澤勝哉▽同　石川哲也▽監査役（非常勤）伊藤茂▽同（同）西沢耕一

専務取締役の浅谷徳男、常務取締役の齋須英明、廣岡誠二の3氏は退任した。

丸紅エッグ

丸紅エッグ㈱（本社・東京都中央区）は6月29日に第31回定時株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

代表取締役社長　藤井伸一▽代表取締役社長　十文字保雄▽取締役　佐藤政孝▽同　春日信人▽同　上村康浩▽監査役　諏訪忠明

児湯食鳥

㈱児湯食鳥（本社・宮崎県川南町）は6月23日に第55回定時株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

代表取締役会長兼CE田和幸（新任）▽監査役（同）原伸吉▽同（同）赤星有一

取締役の小笠原聡氏は退任した。

社長に髙橋氏 ITSファーム

アイ・ティー・エスファーム㈱（本社・東京都江東区）は6月10日に定時株主総会と取締役会を開き、前保成氏が社長に就任した。

代表取締役社長　田中保成▽取締役副社長　森山治▽専務取締役　石川達也▽社外取締役　秋元之浩▽同　浦山琢磨▽監査役　神崎行哉

倉持産業

倉持産業㈱（本社・茨城県常総市）は次の人事異動を行なった。

営業本部長（飼料部次長）倉持有生▽鶏卵部長（鶏卵部部長代理）石川昇吾▽相談役（鶏卵部長）小花一夫

スターゼン

スターゼン㈱（本社・東京都港区）は6月29日に定髙濱良一▽同　定信隆壮（新任）▽同　若松威男（同）▽社外取締役　大原亘▽同　吉里格▽同　中村英男（新任）▽同　松石昌典（同）▽同　関川隆志（同）▽常勤監査役　菅野耕平▽常勤社外監査役　平田将士▽社外監査役　小越信吾▽同　江藤真理子

十文字丸善スープ

㈱十文字丸善スープ（本社・岩手県久慈市）は6月29日に株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

代表取締役社長　十文字保雄▽取締役副社長　竹本博則▽取締役　佐藤政孝▽同　武田信幸▽同　春日信人▽監査役　太田健▽同　十文字武志伯裕志▽同　佐藤政孝▽同　小澤和之▽監査役　畠山正▽同　圃田健治

PJ二戸フーズ

㈱PJ二戸フーズ（本社・岩手県二戸市）は6月21日に株主総会と取締役会を開き、次の各氏が役員に就任した。

代表取締役会長　藤井伸一▽代表取締役社長　十文字保雄▽取締役　佐藤政孝▽同　春日信人▽同　上村康浩▽監査役　諏訪忠明

取締役の宮脇晃氏は退任した。

社長に田村富美子氏 ヒノマル

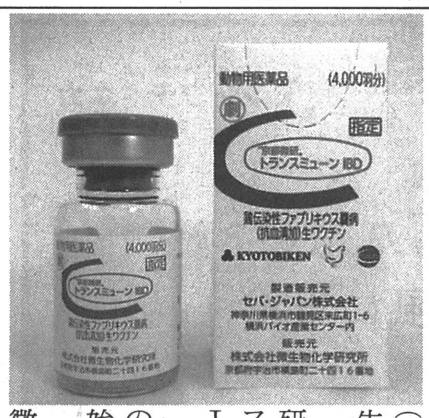
㈱ヒノマル（本社・京都市伏見区）は5月21日に取締役会を開き、田村富美子氏が社長に就任した。田村隆博社長は会長に就いた。

代表取締役会長　田村隆博▽代表取締役社長　田村富美子

『〝京都微研〟トランスミューンIBD』新発売

ささえあ製薬、京都微研、セバ・ジャパン

ささえあ製薬㈱（谷口元、㈱微生物化学研究所（猪狩康孝社長―本社・京都府宇治市、略称・京都微研）が販売元の鶏伝染性ファブリキウス嚢病（抗血清加）生ワクチン『〝京都微研〟トランスミューンIBD』【写真上】の販売を開始する。



『〝京都微研〟トランスミューンIBD』は、伝染性ファブリキウス嚢病（IBD）の予防のため、セバ・サンテ・アニマル社（本社・フランス）のグローバルなネットワークにより、世界75か国で使用されている生ワクチン。発売以来、1100億ドーズ以上（2020年は140億ドーズ以上）の使用実績があり、世界のIBD生ワクチンの中でトップシェアに位置付けられている（2021年時点、セバ社調べ）。製品の主な特長は次の通り。

①抗体を付加した移行抗体耐性型の生ワクチン＝IBD移行抗体レベルの影響を受けないため、接種日の特定が不要。

②孵化場での接種（卵内・頸部皮下）が可能＝自動卵内接種機による接種と、1日齢の雛への接種が可能で、大規模羽数に対応できる。

③IBD野外ウイルスの農場内拡散抑制＝継続使用でIBD野外ウイルスを環境から排除するため、農場での再接種が不要になる。

京都微研が長年にわたり培ってきた研究開発力を用いて日本各地のIBDウイルスの浸潤状況を調査した結果と、アジアにおける鶏用ワクチンの販売でトップシェアを持つセバ・グループが各国の農場で蓄積してきた知見を活用し、ささえあ製薬が構築するセールスネットワークを駆使して全国の生産者に『〝京都微研〟トランスミューンIBD』を提供する。

ささえあ製薬、京都微研、セバ・ジャパンの3社は「このワクチンにより、農場でのIBD野外ウイルスの感染サイクルを止め、孵化場での均一な免疫を獲得させるとともに、従来の飲水投与型IBD生ワクチンでの作業を省力化することで、養鶏業界の生産性の向上に貢献したい」とコメントしている。

発注に関する問い合わせは、ささえあ製薬カスタマーセンター（電03・5795・0915）、製品情報に関する問い合わせはセバ・ジャパン（電045・276・5616、製品紹介動画＝https://www.youtube.com/watch?v=mD3CPNY8Tr-Y）へ。

第三者割当増資を実施

販路拡大やM&Aなどを推進

江夏商事ホールディングス㈱（岩崎和也社長―本社・宮崎市）は、7月15日に伊藤忠商事㈱（本社・東京都港区）と㈱宮崎銀行（本社・宮崎市）を引き受け先とする第三者割当増資を実施した。両社の持株比率はそれぞれ5％になった。

江夏商事グループは明治33年（1900年）の創業以来、安全・安心な鶏肉を消費者に届けるため、生産から加工・販売までを一貫体制で手掛け、近年では直営農場の追加展開、提携企業との取り組み、集鳥運搬における日本初のシステム導入など積極的に投資し、年間取り扱い羽数は2000万羽規模となっている。

今年度より掲げている中期経営計画〝Challenge 2024〟でも、自ら変化し挑戦し続ける企業として、①ブロイラー事業の成長加速②積極的なM&A取り組み③新規事業創出――の3点に注力している。今回の第三者割当増資は〝Challenge 2024〟の推進を加速するための資金調達と新たな株主による販路拡大、M&Aを含む取り組み推進のサポートを目的とするもの。さらにSDGsへの取り組みでも新たな株主の知見や協力を得て、サステナブルな社会の実現に貢献していくとしている。

食肉製品製造・加工の新会社を設立

江夏商事グループは、㈱センターフーズ（富宿琢也社長）と丸園冷蔵㈱（富宿雅丈社長）から食肉製品製造・加工事業を譲り受け、設立した新会社により7月1日から営業を開始した。新会社の概要は次の通り。

会社名＝センターフーズ株式会社

代表者＝代表取締役会長　江夏俊太郎▽代表取締役社長　岩崎和也▽資本金＝1000万円（江夏商事ホールディングス㈱の100％子会社）

所在地＝鹿児島県いちき串木野市西薩町17―4▽設立日＝2021年5月31日▽営業開始日＝2021年7月1日

「国連食料システムサミット2021」への支持表明

ケンコーマヨネーズ コミットメントも提出

ケンコーマヨネーズ㈱（東京本社・東京都杉並区）は7月14日、今年9月に米国ニューヨークで開催される「国連食料システムサミット（Food Systems Summit）」への支持を表明し、コミュニティーでサミットが開かれる予定。同サミットでは、食料システムの視点で捉えて、持続性の確保を世界的な共通課題として議論し、今後のあるべき姿を示そうとする各国ハイレベルによる初定され、それぞれの課題解決に向けて議論する。日本でも同サミットの趣旨に賛同した民間企業が実施していく取り組みをコミットメントとして提出し、政府が取りまとめて国連に提出する予定。

ケンコーマヨネーズは「すべての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催される国連食料システムサミットへの支持を表明します。

当社グループは、持続的な食料システム、特に『食料消費の持続可能性』と『環境に調和した農林水産業の推進』の実現に貢献するため、食品ロス・食品廃棄物の削減や温室効果ガス排出量の削減に取り組み、食を通じて人々の健康・幸せ作りに寄与すると共に、持続可能な社会の実現に貢献します」とのコミットメントを提出した。

具体的な取り組みと目標は次の通り。

▽「食料消費の持続可能性」の実現のために＝2030年までに食品ロス・食品廃棄物の15％削減を目指す（2019年度対比）。アップサイクル商品の開発を推進する。

▽「環境に調和した農林水産業の推進」の実現のために＝2030年までに温室効果ガス排出量の50％削減を目指す（同）。環境に配慮した資材を選択し、プラスチック使用量の削減を推進する。

静岡県富士市主催のユニバーサル就労推進事業に関する企業説明会

山工場の担当者が、現在の取り組みと採用後の就労者の様子などを説明し、「ユニバーサ

たまごフェスタ中止

農水省指定荷受機関

・本社／東日本事業部／液卵原料部
東京都中央区日本橋室町4-5-1
TEL 03-6854-0650

・加工事業部／つくばエッグセンター
茨城県下妻市大木熊の山902-10
TEL 0296-30-7701

・西日本事業部　西日本営業課
兵庫県神戸市中央区伊藤町119
TEL 078-325-1650

・西日本事業部　九州営業課
福岡県嘉麻市牛隈990-1
TEL 0948-57-4301

丸紅エッグ株式会社

液卵・青果・砂糖・澱粉・大豆・雑穀・中華材料
各種食品原料を扱う専門商社

三幸食品株式会社
代表取締役社長　杉山幸一
〒103-0014 東京都中央区日本橋蠣殻町二―十六
電話（〇三）五六四二―七三三三
FAX（〇三）五六四二―七三〇〇
関連会社　サンヨーエッグ株式会社

株式会社 山岸要商店
代表取締役社長　山岸千
常務取締役　山岸健
GPセンター長　岡本文
本社　〒299-3202 千葉県大網白里市南今泉三三七三番
電話　〇四七五―七七―三一一一
FAX　〇四七五―七七―三一一一
GPセンター　〒299-3203 千葉県大網白里市四天木四六〇番地
電話　〇四七五―七七―三七一〇

北総の大地と緑に密着した
卵を生産するグループ
農事組合法人 北総養鶏組合
代表理事　木内恒幸
理事　宮澤哲雄　理事　宮崎昌
理事　衣鳩富美男　理事　衣鳩享
〒289-2505 千葉県旭市鎌数七〇八〇―二
電話　〇四七九―六二―七六
FAX　〇四七九―六二―八〇

創業 明治
〒273-0014 船橋市高瀬町62―2
TEL（047）435―0700
〈神奈川〉
〒216―0014 川崎市宮前区菅生ヶ丘23―11
TEL（044）977―3220